

愛知医科大学学報



第38回厚生会展出展作品「春、近づいています。」
(写真提供 生理学講座 塩野裕之シニア講師)

＝ 第161号 ＝
2021. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
新型コロナに関する連携協力協定締結	7
愛知医科大学分院構想	8
看護学部創立20周年記念式典開催	14
ダイバーシティネットワーク認定証交付	15
令和3年度学年暦	19
令和3年度入学試験開始	20
Smile ～スマイル～	38
教育・研究最前線	39



－ 2021年の新年を迎えて－

理事長・学長 祖父江 元

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症への対応に明け暮れ、この年始に入っても更に蔓延が続いていますが、皆さまはどのような新年を迎えておられますでしょうか。本学は、昨年1年間で色々なことがありましたが、その多くは今年も続けて発展させていくべき内容です。年頭のごあいさつとして、その現状と今後への展望をご紹介します。

第一には、やはり新型コロナウイルス感染症への対応についてです。コロナ感染症患者受け入れのため病床整備を行い、8D病棟13床、EICU 6床、HCU20床（合計39床）を県に登録し、診療体制を組んで中等症から重症患者（13床に拡充）を受け入れています。また、病院の外来体制整備（R2.5.7～）、全入院患者に対するPCR検査の実施（R2.9.14～）、愛知県立愛知病院へ医師2名を派遣（R2.10.12～）、愛知県の行政PCR検査の受託（R2.10.15～）、更にPCR検査能力の大幅アップを図りました。（3月には1,000件/日の運用）また、学部の実習・講義・試験・国試へのコロナ対策、更に大学・病院がそれぞれ活動基準を策定し、見直し、遵守を徹底しています。加えて、この年末・年始の休みには電子カルテの更新を行い、作業員400人程が病棟に入りましたが、全員にPCR検査を実施する等の対策を講じ、無事終えることができました。皆さまには大変なご尽力を頂きました。今のところ水際で感染を制御できており、院内での感染は発生していません。改めて心より感謝致します。愛知医大一丸となってコロナに立ち向かうという体制ができていると感じます。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

昨年4月に経営戦略推進本部を立ち上げました。各部署から独立し、理事長直轄の組織として、各部署にわたる全体の問題、新規のイノベーションのテーマ、組織改変といった人事・予算を伴う案件等を比較的短い時間で進めて実行に移そうということで、推進本部の下に幾つかのプロジェクトチームを作り、各々のプロジェクトに当事者や関係者を含めた形で進めています。（経営戦略推進副本部長・羽生田正行教授、経営戦略推進事務室・岩船徹雄室長）以前からご紹介させて頂いておりますが、立ち上がって、まだ1年にならないところですが、救急体制、分院構想等を含め、現在五つ程のプロジェクトが動いています。各プロジェクトには、リーダーと、その下にサブグループが立ち上げられており、事務も含めて各職種の関係者30人あるいは、それ以上のメンバーで進められています。そのいくつかの現状をご紹介します。

一つは救急医療体制改革プロジェクトです。「断らない救急」をめざして進めています。救急は地域医療にとって最も要になるものです。まず、問題となっていた内科・外科の当直体制を見直し、救急当直と各科当直の在り方や形について専門性等を考慮して大幅に変えており、ファーストタッチの救急当直は総勢10名程になります。また、管理当直1名を置き、救急の場にスタッフがすぐに集まれるように、救急の外来当直室を新たに3室設置することにしました。各科の当直室も、中央棟の各階にあった当直室を整備し、すぐに対応できる導線になりました。更に、今まで骨折外傷を十分に受け入れていませんでしたが、整形外科のご尽力で、骨折外傷専門のチームが作られる方向です。患者の導線としての前方、

後方病院の連携については、地域医療連携のプロジェクトグループも加わり、形作りを進めているところです。全体としては、断らない救急に向けてかなり具体化してきたと思います。重要なのは、このような体制の形を変えることについて、各科の教授を始めとした関係者に集まって頂き、何度も議論を重ねて大方の同意を形成して頂いたことです。基本は、今の救急当直よりも負担を増やさないということをめざしています。各サブグループのリーダーの加納秀記教授、伊藤恭彦教授、中野正吾教授、羽生田正行教授、及び多くの関係者の皆さまには、本当に尽力して頂きました。改めて感謝申し上げる次第です。まだ最終的な形には至っていない部分もありますが、できれば早急にこのシステムを部分的にもスタートさせたいと思います。

地域連携ネットワークの構築プロジェクトでは、「顔の見える地域連携」をめざして進めています。近隣の17病院を訪問して実態を調査し、まずはその中の5病院を中心に、ひな形的に連携の構築を進めているところです。まずは、看護の看連携が先行し、転院患者の情報交換、実技教育研修、患者の転院促進、人事交流が順次進んでいます。一方では、本院の中の患者の転院・入院の支援体制や地域の医院などへの訪問体制なども併せて変えていく必要があると感じています。リーダーの羽生田正行教授、天野哲也教授、及び井上里恵看護部長ら関係者の皆さまに感謝致します。

財政基盤改革プロジェクトでは、リハビリテーションの請求単位増加、各種の加算請求向上、医療材料・薬剤購入の経費削減等について検討し、順次実行に移しています。中でもリハビリの拡張は地域連携との関係を含め、特に大きな可能性が見込まれますが、OT・PTの人員の問題やリハビリスペースの拡張の問題等があり、今後総合的な改革が必要となっています。リーダーの道勇学教授、天野哲也教授ら関係者に感謝致します。

働き方改革プロジェクトでは、時代にマッチした勤務体系の構築をめざして進めています。まだ始まったばかりで、国の働き方改革も念頭に置きながら、職員全体の勤務時間の適正化、ワークシェアリング、医師の超勤、代務等にも踏み込んで検討頂

うと思っています。リーダーの伊藤恭彦教授ら関係者に感謝致します。

それから、分院構想プロジェクトであります。医療法人愛整会が開設している北斗病院の事業を本学に譲渡承継するというものです。昨年12月21日(月)の理事会で契約を締結することが承認され、4月1日開院に向けて準備が進んでいます。この愛知医大分院構想については、別途皆さまに詳細をお知らせしたいと思います。北斗病院は、岡崎北部、豊田市との境近くに存在する270床の病院で、現在は整形外科と回復期リハビリが中心になっています。この地域は、内科を中心に入院等が可能な施設が不足しており、本学としては、地域を支えるファミリーメディスンや疾患別の地域と循環する地域医療とそれに必要な入院や専門医療の提供、1・2次の救急医療、教育病院として特に後期研修医の専門医研修のフィールドとしての機能の充実等をめざしていきたいと思っています。更には、本院との間でキャリアパスに利用できる病院として発展できればと考えています。この地域には、本学の同門の先生方も多数開業しておられ、地域の医療連携体制の推進がまず大切だと思います。是非ご支援を頂けるとありがたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

経営戦略推進本部以外の事業については、昨年10月11日(日)・12日(月)の2日間に亘り、公益財団法人大学基準協会の大学評価を受審しました。学校教育法に基づき、7年毎の受審が義務付けられているものです。今回の大学評価では、内部質保証が重点にされており、PDCAサイクルの実態が検証されました。評価結果については、先般、「適合」との内示を頂いており、安堵しているところです。ご尽力頂いた各方面の方々に改めて感謝申し上げます。

昨年は色々なことがあり、大変多忙であったとともに、チャレンジングであったと思います。これらの流れは本年も継続します。愛知医大一丸となって進めていきたいと思っています。いつも、ご尽力を頂いております学内の皆さまに改めて感謝を申し上げます。同窓の皆さまには、今後も一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



－新型コロナウイルス感染症・ パンデミック下における医学教育－

医学部長 若槻明彦

新年明けましておめでとうございます。

令和2年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックで、日本のみならず世界中が恐怖と混乱を極めた年でした。日本政府は経済の活性化とCOVID-19の感染防止の両面から対策を講じてきましたが、収束どころか、第1波よりも数段大きい第3波が到来して更なる拡大傾向を示しております。経済対策として行われたGo Toキャンペーンに関しては賛否両論ありましたが、結果、今年になり2回目の緊急事態宣言を発せざるを得ない状況となっております。国民からすれば一貫性のない政策のように見えます。感染防止をしながらの経済の活性化はよくブレーキとアクセルに例えられますが、両立はやはり困難なのではないでしょうか。

現在、COVID-19感染者の増大により、全国の病床が不足し、COVID-19患者の入院するベッドがない、あるいはこれまでの通常診療が困難など、全国の病院は危機的状況に至っており、すでに医療崩壊の段階だと思えます。将来の目処がたたないこの状態が継続しますと、これまで当たり前に行ってきた医療提供も制限される可能性があります。また、国民が期待している7月開催予定のオリンピック・パラリンピックにも多大なる影響があるのではないのでしょうか。

一方、COVID-19に対するワクチンがいち早く開発され、使用可能となったことは朗報です。早期からワクチン接種を開始したイスラエルではCOVID-19の感染率が低下しているとの明るいニュースもあります。しかし、早急に承認されたワクチンの副反応を危惧する声が少ないのも事実です。

昨年に行った本学医学部のCOVID-19対策としては、まず新型コロナウイルス対策委員会を4月にい

ち早く設立し、感染防止を目的として「愛知医科大学の活動基準」を設定しました。内容は、1. 教育(講義・演習・実習など)、2. 研究活動、3. 学生の入構制限、4. 課外活動、5. 教職員、6. 会議・セミナー、7. 出張・旅行の7項目からなり、各々のレベルを程度で0から4まで分類しています。ほぼ毎週、委員会を開催してCOVID-19の感染状況にあわせて基準を設定してきました。

また、当初、学生の講義は一旦全てWeb配信とし、臨床実習も中止としました。その後、感染防止対策を行いながら臨床実習を再開するとともに、講義もWebと来学して聴講するハイブリッドの形式としました。しかし、第2波、第3波と感染の拡大に伴い発出された緊急事態宣言により、再度、制限せざるを得ない状況になってきました。COVID-19のパンデミックは世界中の誰も経験したことなく、この環境下での学生教育のあり方について正解はなく、限られた環境下でできるだけ教育の質的向上を試みています。昨年の春、感染防止対策の一環として通常講義の代替として使用してきたICT教育には、慣れていない点もありましたが、使用実績を積み重ねるに連れメリットも判明してきました。今後、仮にCOVID-19が収束したとしてもこれまで通りの医学教育に完全には戻らず、ICTを利用した教育が主流になると想定されます。

令和3年は更なるICT教育の改良・改善を模索するとともに、医学教育レベルの質的向上に務め、自分が医学部長を拝命した時に掲げたマニフェストである「大学のブランド化」のために尽力したいと考えております。本年も何卒宜しくお願い致します。



－難局を看護のチーム力で 乗り越えよう－

看護学部長 坂本 真理子

令和3年の年頭に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

皆さまには、日頃から看護学部・看護学研究科の教育活動に多大なるご理解ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年来、世界各国でCOVID-19が蔓延し、人々の生活が一変致しました。そんな中で、感染のリスクに晒されながら、現場の最前線でご尽力されている保健医療福祉機関の皆さまに感謝申し上げます。取り分け、長時間、患者さんの傍に寄り添いケアを行っておられる看護職の皆さまには深い敬意と感謝をお伝えします。看護職の皆さまの業務負担増や精神的な重荷は大変なものですが、看護学を学ぶ学生達は頑張り続ける先輩方の姿をしっかり見ております。いつか先輩たちのように最前線で活躍するための力を蓄えたいと、勉学に励んでおります。多くの学生を看護職者として世の中に送り出す立場として、ご活躍されている看護職の皆さまを、そして、大変な仕事と理解しながらも看護職を目指す学生達を大変誇らしく感じております。

それでは、この場をお借りして、看護学部の1年をご報告させていただきます。令和2年は看護学部におきましても、COVID-19の影響を色濃く受けた年でした。卒業式や入学式、キャンドルセレモニー、オープンキャンパスなど看護学部にとって大きなイベントの全てが多大な制限を受けました。4月には、入学した新生を始め全学年が、ガイダンス後からオンラインによる授業に完全に切り替わり、第1回目の緊急事態宣言が解除となった5月末まで続きました。しかしながら、本学では3月までの準備により、オンライン授業を授業時間割に沿って空白なく実施できたことは幸いでした。登校ができるようになってからも厳重な感染対策が求められ、学生や教職員の健康を守る緊迫した取り組みが続いております。誰にとっても初めての危機的状況の一つひとつ

乗り越えていく必要がありましたが、看護学部の教職員がチームとなって対応できたことは大きな支えでした。

COVID-19の影響で、学生生活も様変わりし、不安や困難を感じる学生も少なくありませんでしたが、看護学部では、できる限り迅速で丁寧な対応を心掛けました。学生達が「遠隔授業」に向けた環境を整備する支援についても、多くの皆さまのご支援なくしてはできなかつたものだと思います。今後も学生の声に耳を傾け、「一人の学生も取り残さない」看護学部でありたいと思っております。

COVID-19対策に終始した昨年ではございましたが、嬉しいご報告もございます。まず、令和元年度の卒業生全員が看護師国家試験に合格し、保健師課程の学生全員が保健師国家試験に合格できたことは大変喜ばしいことでした。また、令和2年度は看護学部創立20周年の年であり、12月5日（土）に記念式典をオンラインで執り行いました。看護学部の創設者のお一人である高橋照子先生の基調講演を始め、看護学部の20年の歩みをまとめたDVDをご紹介させていただきました。卒業生によるリレートークでは卒業生の皆さまの頼もしいメッセージに勇気づけられました。記念式典には多くの卒業生や修了生の皆さま、看護学部にご縁がありました先生方や関係機関の皆さま方にご参加頂くことができましたことを、心より感謝申し上げます。3月に記念誌を発行するべく作業を進めております。

COVID-19の一日も早い収束を祈るばかりですが、感染対策をしっかり行いつつも、充実した看護教育を行えるよう、教職員が一丸となって頑張っ参りたいと思っております。皆さまには一層のご指導ご支援をお願いしたいと存じます。最後になりましたが、皆さまのご健康と益々のご活躍を心から祈念致しまして、私からの年頭のあいさつとさせていただきます。



恭賀新年

— 新しい年2021年の始まりに当たり、
ごあいさつを申し上げます —

病院長 藤原 祥裕

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延に全てが染められた1年となりました。本来であれば年頭に当たり、おめでたい話をするべきですが、この未曾有の災厄に触れないわけにはいきません。昨年1月16日に国内初の陽性患者が報告されてから、新型コロナウイルス感染症は、ひっそりとしかも着実に本院に忍び寄っておりました。4月には病院職員に陽性患者が発生し、約二週間、新規患者の受け入れを停止せざるを得ない状況となりました。今となつては少しやりすぎだった感も否めませんが、当時は本疾患の詳細も分からず、院内クラスター発生を予防するためには、やむを得ない判断であったと思います。その後も、来院した患者さんや職員に陽性患者や濃厚接触者が散発的に発生しておりますが、感染制御部、ICTを始めとする院内職員の大変な努力によって大事には至らずに済んでおります。

本院は、愛知県からの要請に応じて中等症・重症患者の入院治療を中心に地域に貢献して参りました。昨年暮れから第3波と呼ばれる感染患者数の増加が認められ、本院への患者受け入れ要請も日に日に増加しておりますが、地域からの要請にできる限り応えていきたいと思っております。また、昨年暮れより県立愛知病院での陽性患者受け入れが開始され、本院からも呼吸器・アレルギー内科医師を中心に医師の派遣を開始しております。病院内外で新型コロナウイルス感染症の診療に忙殺される現場職員の苦労は大変なものがあると思っておりますが、病院職員一丸となってこの難局を乗り越りたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症への感染を恐れ、医療機関への受診を控える患者さんが多くなっていると伺っております。本院への来院患者数も、一昨年に比べれば減少しておりますが、その減少幅は限定的であり、改めて地域住民の皆さまが本院を頼りにしてくださっていることを実感している次第です。コロナ禍にあってもがん診療、救急診療など通常の診療も回していかなければなりません。今後も地域医療をしっかりと守っていく所存です。

昨年受審予定であった病院機能評価も、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で延期となり、改めて今秋受審予定となっております。受審の準備もままならない状況が続いておりますが、万全の体制で受審に臨みたいと思っております。昨年予定されていた電子カルテの更新も延期となりましたが、年末年始の休み中に無事終了することができました。ご協力頂いた皆さまには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後に、病院職員の皆さまには、今までの新型コロナウイルス感染症診療への多大なご協力に心より感謝申し上げます。とりわけ、感染制御部、ICT、呼吸器・アレルギー内科、救急診療部、救命救急科、総合診療科、看護部、病院事務部の皆さまには、昼夜を問わず対応頂き、本当に頭の下がる思いです。まもなくワクチンの接種も開始できるようになると伺っております。明けない夜はありません。一刻も早くこの災厄が消退し、皆さまが通常の生活を取り戻せるよう、心より祈念致しまして年頭のごあいさつとさせていただきます。

「新型コロナウイルス感染症に関する 県内4大学との連携と協力に関する協定」締結

愛知県と県内4大学（本学、名古屋大学、名古屋市立大学、藤田医科大学）が相互に連携・協力して新型コロナウイルス感染症の克服を図り、県民の生命・健康を守ることを目的とした「新型コロナウイルス感染症に関する県内4大学と愛知県との連携と協力に関する協定」を締結することとなり、令和2年11月15日（日）午前9時から愛知県公館において協定締結式が執り行われ、本学から祖父江元 理事長が出席されました。【写真】

新型コロナウイルス感染症の更なる感染拡大や、インフルエンザとの同時流行が懸念される中、本協定により、感染症に関する県内の医療提供体制及び検査体制の強化充実や調査研究等に関する愛知県及び県内4大学の連携・協力が強化されます。

協定締結式では、大村秀章愛知県知事から、これ



までの各大学での協力体制への感謝とともに、「オール愛知で新型コロナを乗り越えたい。」とのあいさつがあり、祖父江理事長は、「4大学が力を合わせて立ち向かう『目に見える』構造の協力体制を進めることは、全国的にも先駆的で意義深いものである。」と応じられました。

令和3年新年祝賀式挙行

令和3年1月4日（月）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、祖父江元 理事長から、「昨年から続くコロナ禍の中、皆さまの大変なご尽力のおかげをもちまして、愛知医大が一丸となりコロナに立ち向かう体制ができつつあることから、改めて皆さまに御礼申し上げますとともに、引き続き何卒よろしくお願ひ致します。また、昨年4月に発足した経営戦略推進本部では、救急医療体制改革プロジェクトを始めとする五つのプロジェクトを立ち上げ、組織横断的な課題や新規のイノベーション等に取り組んでいます。そのほかにも、昨年は大学評価受審や医療情報システムの更新など様々なことがあり、大変多忙でチャレンジングな1年であったと思います。本



新年のあいさつを述べる祖父江理事長

年は、この流れを更に発展させるため、愛知医大一丸となって進めていきたいと思っておりますので、今後とも一層のご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」とあいさつがありました。

愛知医科大学分院構想（北斗病院事業承継）

理事長 祖父江 元

令和2年12月21日（月）開催の理事会・評議員会において、本学初の分院として、医療法人愛整会北斗病院の事業承継計画が承認されました。愛知県岡崎市北部に位置する北斗病院は、本学から東名高速道路を使って約30分の所にあります。病床数は270床で、一般病床とともに回復期リハや地域包括ケア病床も有しています。

事業承継については、令和2年6月に医療法人愛整会の齋藤好道理事長から「北斗病院事業承継の提案」があり、9月28日（月）に「基本合意書」を締結しました。その後、財務、人事、施設、事業、IT及び法務のデューデリジェンスを実施し、齋藤理事長始め医療法人愛整会側と10数回の協議を重ねた結果、12月21日（月）に最終の「事業譲渡契約」が締結されました。

令和3年1月4日（月）に、「学校法人愛知医科大学・医療法人愛整会北斗病院事業承継調印式」が行われました。

現在、岡崎市、岡崎市保健所、愛知県、地方医務局、岡崎・豊田の各医師会の方々、更に、この地域には約50名の本学卒業生が診療所を開いておられ、順次表敬訪問や開院に向けた手続きなどを進めているところです。

この分院は「愛知医科大学メディカルセンター」として承認される予定で、本年4月1日開院に向けて準備を進めております。病院長には本学理事・副学長・経営戦略推進本部副本部長の羽生田正行教授にご就任頂く予定になっております。また、内科を始めとする各診療科からは、若手・中堅の多くの医師を常勤、非常勤で派遣頂くことになっており、ここに改めて感謝申し上げます。この医師の士気が大変高いことに感銘を受けております。また、病院看護師、各コメディカル、更に医学部、看護学部においても、開院、立ち上げに向けた絶大なるご尽力を頂いており、心から感謝申し上げます。

現在、分院構想の実現に向けて、経営戦略推進本

部の中に分院設置準備室が設けられており、開院に向けた諸問題の解決に当たって頂いております。愛知医大一丸となって分院設立に向けた力が結集されているのを感じます。関係各位に感謝申し上げますとともに、分院立ち上げと、更に、その後の順調な運営の成功をめざしていきたいと思っております。同窓の先生方にもご支援何卒よろしくお願い申し上げます。

ここで、愛知医科大学メディカルセンターがどのような機能を担い、地域の拠点となっていくべきか、また教育病院としてどう活用していくかの考え方について、皆さまのご理解を頂けたらと存じます。

1 西三河南部東医療圏の医療ニーズと担うべき役割

西三河南部東医療圏の医療需要において、2040年までの65歳以上人口の増加率は愛知県全体を上回り、今後、内科疾患を中心とした高齢者疾患の救急ニーズ、並びに急性期後のSub-acute及びPost-acute患者へのリハビリニーズの増大に加え、複数疾患を有する高齢患者に対応するための疾患の専門医による地域医療の支援機能が必要になると考えられます。

一方、北斗病院周辺には医療機関及び内科標榜クリニックが限られ、急性期だけでなく、回復期機能の病床も不足しており、当該医療圏の医療提供体制は決して十分とは言えない状況です。地域とのWin-Winの関係構築の方針の下、新たに地域医療の実践の場として、更に卒前卒後の教育病院としての活用、Family Medicine（地域医療サポート）に代表される次世代から求められる新たな医療人を育成することで、西三河地域全域の医療を支える医療機関をめざしています。

2 分院における医療体制

(1) Family Medicine（地域医療サポート）

高齢化の進展により疾病構造の変化への対応が喫緊の課題となっています。

主に各種の難病、糖尿病、脳卒中、心筋梗塞、がん、リウマチ、認知症などの疾患との長期にわたる共存と、多様な進行期・慢性期を有する疾患において、疾患別の地域医療のシステム化、2次的な再発予防、進行予防に展開できる地域のジェネラリストと専門医の協働システムの開発が求められています。

疾患別に丁寧に対応できる専門医を配置し、未診断・問題未解決症例を受け入れ、治療方針を決定することで地域医療を支援したいと思います。

(2) 救急医療体制の整備

救急体制については、分院が参加している病院群輪番制の下、まずは月8回程度を担当できるように体制強化し、救急患者の受け入れ（1次・2次）、治療方針の決定、元の医療機関へのお戻しにより西三河南部東医療圏及び分院の周辺地域における開業医、病院などの地域医療ニーズをサポートする循環型の地域医療連携システムを構築していきたいと考えます。二年後位を目途に、年間を通じた1次・2次の救急体制の整備を行っていききたいと思います。

(3) 内科、整形外科、リハビリテーション科などを中心とする専門医療の展開

西三河南部東医療圏において、内科専門施設が少ないことが課題となっており、まずは、内科、整形外科、リハビリテーション科を柱とした疾患別専門診療を展開していきます。

複数の常勤医を配置し、消化器疾患、糖尿病、腎臓疾患、リウマチ膠原病疾患、循環器疾患を中心とした専門診療を行います。また、内科専門施設として西三河地域の広域拠点としての役割を担えるように、様々な難病に対応できる診療体制を整備していきたいと思います。骨折など整形外傷や脊髄疾患などの従来の診療を更に発展させていきたいと思えます。リハビリテーションにおいても、専門医を新たに配置し、従来の整形リハ、脳リハに加え、心臓リハ、癌リハ、嚥下リハなど新規リハ等も加えていきたいと思えます。

(4) 眼科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科などを中心とする疾患別専門診療、日帰り手術の提供

地域医療のバックアップサポートを主旨とし、各科に特化した疾患の専門診療を提供し、眼科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科などを中心に日帰り手術を行います。特に眼科においては、専門性が高く、高度な知識と技術が必要となる硝子体関連の日帰り手術等の実施も行っていきたいです。

(5) 透析医療の拡充

新たに開設する腎臓内科を中心に、専門医療を展開することで、診療所では対応が困難な種々の合併症があり、入院を必要とする患者の広域的な医療ニーズに対応していきます。

(6) 地域医療の教育施設及び専門医の養成施設としての活用

卒後3～5・6年の後期研修、専門医研修において、地域医療に係る指導医、各領域の専門医等を新規配置し、研修プログラムを開発することで、分院での外部研修の実施をめざしていきたいです。

また、本学に地域医療講座等を新設するとともに、研修指導体制を整備し、医学部実習における学外実習などを分院で実施することにより、地域医療の専門医養成の拠点化を図り、西三河全域の医療水準の向上をめざしていけたらと考えています。

(7) 地域医療連携・広域医療連携の推進

西三河南部東医療圏及び周辺地域とのWin-Winの関係をめざし、近隣病院及び診療所との情報交換会や定期訪問等の実施を通じ、病診連携、病病連携を強化します。また、難病等を中心に広域連携を推進し、西三河地域の拠点となることをめざしたいと思います。

皆さま方におかれましては、今後の分院の立ち上げ、活性化、地域との連携に向けて御支援を賜りますようお願い申し上げます。

愛知医科大学分院構想進捗報告

分院設置準備室

令和3年4月1日、愛知医科大学の分院が誕生します。地域からの大きな期待と注目を集める中、本学の念願であった分院の新しい船出となります。祖父江元 理事長のリーダーシップの下、本事業計画の着手からわずか半年間余りで開院を迎えられることに、本学理事を始め学内関係者の方々のご尽力に敬意を表するとともに感謝申し上げます。

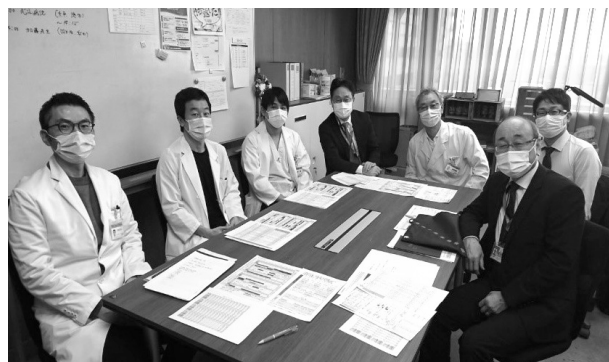
事業承継に当たり、令和2年9月28日（月）、「基本合意書」を締結しました。本契約では、医療法人愛整会が経営する北斗病院の事業譲渡を検討するに当たり、双方の基本的な意向とそれまでの了解事項を確認することを目的とし、互いに誠意をもって協議し、協力することとしました。同時に、秘密保持契約書を締結し、将来構想の立案等に当たり、診療実績及び財務情報等の提供を受けることとし、外部コンサルタントの支援も受けながら約3か月に亘りDD（デューデリジェンス）業務を実施しました。その間、建物及び土地の譲渡金額を協議するため専門業者による不動産鑑定評価を実施する等、多くの情報を収集し、これを基に学内での検討及び先方との交渉を重ね、令和2年12月21日（月）に「事業譲渡契約書」を締結しました。本契約では、北斗病院の医療に関する事業を本学に譲渡すること及び北斗病院の敷地を本学に譲渡するに当たり、譲渡資産、譲渡日及び譲渡代金等諸条件の契約を締結しました。

令和3年1月4日（月）午後1時から大学本館711特別講義室において、祖父江理事長、医療法人愛整会齋藤好道理事長、両機関関係者及び報道関係者が出席中、「学校法人愛知医科大学・医療法人愛整会北斗病院事業承継調印式」が挙行されました。

その後、分院開院に向けて「分院設置準備室」が設置され、分院の病院長に就任される羽生田正行教授が室長に任命されました。準備室の業務は、開院準備に係る課題の解決に向けた検討及び連絡調整等に関することから、最大のミッションとして、開院に向けたPMI（ポスト・マージャー・インテグレーション）プロジェクトの推進に関することとなりま



事業承継調印式
(左から、齋藤理事長及び祖父江理事長)



分院勤務予定医師による打合せ



DD定例会の様子

す。これは、立案した事業譲渡後の統合効果を最大化するための統合プロセスを指しており、統合の対象範囲は経営、業務、意識など統合に関わる全てのプロセスに及びます。

分院設置準備室の業務は、DD業務同様、外部コンサルタントの支援を受け、限られた時間の中で完遂させなければなりません。このため、準備室構成員はDD実施時のユニット（人事、財務、事業、施設、

IT及び法務)を担当した事務職員はもとより、看護部、薬剤部、中央臨床検査部、中央放射線部、輸血部、リハビリテーション部、栄養部及び臨床工学部からも人材を拠出して頂くことと致しました。現在、本学から総勢51名、北斗病院から4名の職員で構成されています。

人生100年時代、全ての人が健康な長寿を迎える訳ではありません。分院では、「Family Medicine」が重要なコンセプトです。心筋梗塞を発症し、幸いにも救命された方は高い確率で心不全の発症リスクを抱えます。更に、かなり悪性の心不全の例も多く、QOLの高い人生を全うしてもらうために、疾患別循環型の患者さん自身を中心とした医療ネットワークの構築を提案しています。疾患別に丁寧な対応が

できる専門医の配置、循環型を可能とする地域医療連携について、本院では最後まで患者さんに寄り添うことが難しい現実があります。

一方、分院では現在の病床機能をフルに活用して、最後まで患者さんに寄り添い、また、地域ぐるみで患者さんに寄り添っていくという、地域に根差した医療を具現化できる可能性を大いに秘めていると考えられます。そういった医療と医療人の育成の実践の場として、次の世代のメディカルセンターとして、大学病院の分院ならではの拠点を構築したいと考えています。開院までには山あり谷あり、課題は山積しておりますが、全学を挙げて分院の成功に結び付けねばなりません。職員の皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

このたび、令和2年12月17日(木)に本院にて治療を受けている小椋均様から、大学病院の診療に寄与するため大動脈内バルーンポンプのご寄付を賜りました。【写真】大動脈内バルーンポンプは、急性心筋梗塞などの重症冠動脈疾患や心不全症例における対外補助循環装置として使用します。小椋様のご厚意に沿うよう有効に活用させて頂くとともに厚く御礼申し上げます。

また、本学近隣企業様や関連企業様等からも、医療材料及び食料等のご寄付について多数のお申し出を賜りました。ご寄付を頂いた皆さまからのご厚意に深く感謝申し上げますとともに、前号に引き続き、掲載の許諾を頂いた企業様の一部をご紹介します



装置贈呈(左から、小椋様、祖父江元 理事長)

きます。(受領期間：令和2年11月16日～令和3年1月31日)

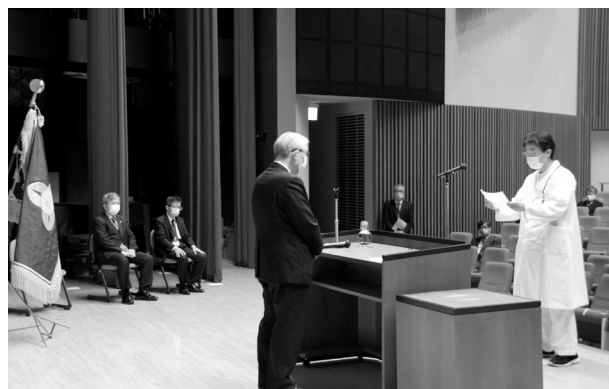
受領日	寄付者(業者名等)	物品	数量
11月20日、30日、 12月3日、15日、17日、 1月7日、12日	BENKEI	食品(菓子パン等)	290個
12月28日	スキレットダイナー	食品(ハンバーガー)	50個
12月29日、30日、 1月2日、3日	焼肉鉢屋	食品(焼肉弁当)	200個
1月25日	日本財団 (医療従事者応援プロジェクト運営事務局)	女性医療従事者支援品 (KOSE化粧品等)	400個

2020年度永年勤続者表彰

令和2年11月20日（金）大学本館たちばなホールにおいて、2020年度永年勤続者表彰式が行われました。

当日は、祖父江元 理事長から表彰状が授与され、被表彰者へのお祝いとお礼の言葉とともに、「更に今後の10年、20年を目指し、本学のイノベーションにも参加して頂きたいと思います。本日は誠にありがとうございました。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、中央臨床検査部の佐野俊一副技師長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。

永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる佐野副技師長

30年勤続者（12名）

伊藤 智樹 大野 眞 佐藤 陽子 佐野 俊一 篠田かおる 清水 聡美 萬谷 和代

20年勤続者（20名）

阿部 司 岩本 賢 笠井 謙次 菊地 正悟 久留宮 愛 坂本真理子 澤田 泰子
鈴木 雅人 館 陽平 長芝 計代 中村 和彦 橋詰玉枝子 福井 雅彦 山田 香奈
渡邊 秀人

10年勤続者（63名）

青野比奈子 赤尾真知子 浅野 翔 安形 早苗 池田 秀次 池田 葉子 市川 昌樹
伊藤 彩乃 伊藤 輝佳 伊藤 慶正 井上 裕太 伊礼リカド 岩澤 瞳 岩田 陽介
太田 豊裕 大道 美香 大森 俊直 小木曾真弓 小栗 徹也 加藤 夏希 小林 佑次
島田 孝一 鈴木麻斗香 高木 拓郎 高橋 圭子 武川 みほ 谷口 純平 谷口真梨子
千葉 一奈 徳田 浩一 仲上 祐也 丹羽 直也 野田 絢子 萩田眞留美 白頭 実季
橋本 篤 濱口真名美 原 なおり 日比 佳恵 藤田 翔一 藤卷恵理子 分造 健太
前川 彩 増田 阿耶 南 真理奈 森田 博之 矢取 直幸 柳下 武士 山田 綾美
山田 恭聖 山田 里奈 余間 辰徳

（95名：五十音順・敬称略）※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としました。

訃報

中尾春壽教授（特任）（メディカルクリニック）御逝去



令和2年12月31日（木）に愛知医科大学メディカルクリニック副クリニック長の中尾春壽教授（特任）がご逝去されました。享年62歳でした。

中尾先生は、昭和60年3月に名古屋市立大学医学部を卒業され、平成20年1月に本学内科学講座（消化器内科）の准教授として着任後、平成22年4月に教授（特任）に昇任されました。平成27年4月から内科学講座（肝胆膵内科）の教授（特任）としてご活躍後、令和元年7月に本学メディカルクリニックの副クリニック長として着任されました。

メディカルクリニック着任後も、肝臓専門医と

して多くの肝疾患患者の診断と治療を行い、特にアルコール性肝障害の管理にお力を注がれ、アルコール依存症の真実を伝えて適正飲酒と偏見是正の大切さを啓蒙するなど、社会医学的にも大きな足跡を残されました。

研究面では臨床研究のみならず、肝臓や肝炎ウイルスの基礎的研究も続けられるなど、メディカルクリニックを拠点として、今後、更なるご活躍が期待されていたため、このたびのご訃報は、本当に残念で言葉がありません。中尾先生のこれまでの多大なご貢献に心より感謝申し上げるとともに、ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ハラスメント防止イベント開催

令和2年12月4日（金）から10日（木）までの人権週間にちなんで、本学でのハラスメント防止に向けた啓発活動が実施されました。

令和2年12月4日（金）・9日（水）をイベント開催日とし、セクシャルハラスメント及びパワーハラスメント関連のDVDの放映が4部制にて行われました。DVD視聴者からは、「ハラスメントを解決するために、コミュニケーションの重要性を理解した。」「気が付かないうちに起こしてしまうハラスメントなので、相手の気持ちに配慮しながら気を付けていきたい。」などの意見がありました。

このほか、職員や学生の目に付くパブリックス

ペースにハラスメント防止ポスターを掲示し、広くハラスメント防止の意識付けを行うとともに、ハラスメントに関する相談を気軽にできる機会として、簡易相談窓口が設置されました。

困ったときは一人で悩まず、携帯用の『ハラスメント防止啓発カード』にある相談窓口の専用電話番号（内線：77744）や専用メールアドレス（ksoudan@aichi-med-u.ac.jp）を利用して、相談するように心掛けて頂きたいと思います。

今後とも、「ハラスメントのない明るい職場作り」にご協力をお願いします。

看護学部創立20周年記念式典開催

愛知医科大学看護学部は、令和2年をもって創立20周年を迎えることとなり、令和2年12月5日（土）午後1時から、本学看護学部創立20周年記念式典が開催されました。

当初、記念式典は本学たちばなホールにおいて挙行し、卒業生の皆さまを始めとして看護学部にご貢献してくださった教職員の皆さま、関係機関の皆さま方と、これまでの看護学部の歩みを共有する機会とする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン配信へと変更し開催されることとなりました。

記念式典では、本学看護学部の創設者の一人であり、初代看護学部長である高橋照子先生（本学名誉教授）をお招きし、「看護実践の変遷と看護学教育の課題」というテーマで記念講演を実施頂きました。

次に、創立20周年記念動画を上映し看護学部の20年の歩みを振り返り、最後に卒業生から在学生に繋ぐリレーメッセージが行われました。当日は、多くの方々にご参加頂き、盛況のうちに幕を閉じることができました。

また、本学部の教育理念である「人間の尊厳を重んじる豊かな感性と思考力を持ち、対象となる人々と共に健康と幸福を追求し人間的に成長する看護を提供できる専門職者を育成する」に基づき、【協調】と【人と人の輪】をイメージした20周年記念ロゴが作成されました。

このロゴは、輪が幾重にも重なっていき、大きさを増して、人としても看護専門職者としても更に成長していくようにという意味が込められ、温かい新和を表すようなお花がイメージされています。



本学看護学部20周年記念ロゴ



集合写真



祖父江元 理事長あいさつ



高橋先生の講演の様子



坂本真理子看護学部長あいさつ

全国ダイバーシティネットワーク組織 「女性研究者活躍支援奨励制度」認定証交付

愛知医科大学は、全国ダイバーシティネットワーク組織より、「女性研究者活躍支援奨励制度」認定証の交付を受けました。これは、女性研究者の活躍推進に向けた研究環境整備等に取り組んでいる機関として認定するものであり、同組織総括責任者である大阪大学総長から全参画機関に対して交付されました。

全国ダイバーシティネットワーク組織とは、文部科学省と連携して、女性研究者を取り巻く研究環境の整備や研究力向上に取り組む諸機関をつなぎ、国内外の取り組み動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開を図るものです。令和2年12月現在、全国で176機関が加盟しており、本学は東海・北陸ブロックに参画しています。

本学では、育児で通常勤務が困難な臨床系女性教員の勤務条件を緩和し、キャリア形成と育児支援を両立することにより、必要な教員の確保とその充実を図ることを目的とした特別育児短時間勤務制度を整備するなど、急増する女性医師を始めとした職場の環境改善を必要とする教職員のために必要な対策を適切かつ速やかに実行する組織として、平成22年度に学長直轄の「男女共同参画プロジェクト」を立ち上げて活動しています。今後も、更なる制度・設備の充実に努めて参ります。



認定証

愛知医科大学公開講座（尾張旭市連携事業）

令和2年11月2日（月）から12月25日（金）に亘り、尾張旭市との連携公開講座がオンラインで開催され、医学部精神科学講座の深津孝英講師が「高齢社会の諸問題～コロナウイルス新時代の行方～」と題して講演を行いました。

講師を務めた深津先生からは、新型コロナウイルス感染症や認知症の予防にもつながる、生活習慣改善のポイントなどについてお話がありました。三密を避けながら、いかにして認知機能の低下を防ぐことができるかや、認知症の原因疾患や診断方法、種類毎の特徴はもとより、患者とその家族の日常生活

の送り方についても具体的に説明されました。

認知症の方の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けられることを目指すのが大切であると述べられました。

視聴された方からは、「身近なテーマである認知症とコロナ禍での認知症予防についてよく分かった。実践に活かしたい。」などの感想があり、有意義な講座となりました。

大学の公開講座としては初めてのオンライン開催となりましたが、感染拡大の心配もなく、自由な時間に視聴できることで大変好評を得ました。

令和2年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

執行部SD実施

令和2年11月16日（月）午前11時から大学本館役員会議室において、株式会社中日ドラゴンズ常務取締役営業本部長の壁谷浩和氏を講師にお迎えし、祖父江元 理事長及び常任理事の6名を対象とした執行部SDが実施されました。【写真】

プロ野球と聞くと野球選手ばかりが着目されがちですが、壁谷氏からは実際に興行を行うマネジメント側の視点から、組織運営や売上向上の秘策、新型コロナウイルス感染症拡大の中において、どのように運営の工夫を行ったのか等、普段は聞くことのできない業界の裏側についての説明がありました。また、「前例踏襲の打破」、「新しい意見・やり方を積極的に取り入れる。」など、本学の経営においても



重要となるポイントについての説明があり、教育・医療業界だけではなく他分野の組織改革や運営方法が本学を経営していく上での参考となることが実感できるSDとなりました。

全学コミュニケーション研修 -アンコンシャスバイアス研修-実施

令和2年10月27日（火）、29日（木）、11月6日（金）の3日間に亘り、大学本館たちばなホールにおいて、全教職員を対象とした全学コミュニケーション研修が実施され、321名の教職員が参加しました。【写真】

本研修は本来であれば「多職種とのコミュニケーション」を図るために、グループワークやペアワークを多く取り入れながら実施する研修ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年は講師による講演会形式で実施されました。

研修では、「お茶くみや事務作業は女性が得意だ。」「遅くまで残業している人は偉い。」など、誰もが持っている「アンコンシャスバイアス（無意識の決め付けや思い込み）」が、自分では気付かない間に他者とのコミュニケーションに歪みを生じさせ、それが肥大化して組織風土にまで影響を与える



可能性があることを学びました。

受講者からは、「自分の思い込みの癖を意識して、問題の本質を見極めて、職場の風土改善に役立てていきたい。」「自分の思い込みではなく、相手の意見を聞いた上でお互い気持ちよく業務ができるように活かしていきたい。」といった感想がありました。

経済アナリスト 森永 卓郎氏による講演会開催

令和2年11月4日（水）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、獨協大学の教授であり経済アナリストの森永卓郎氏をお招きし、「どきどきワクワクシンプル人生、男と女の経済学」をテーマとした講演会が、全教職員を対象として開催されました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出席者約100名の人数制限を設けました。森永氏からは、アメリカ大統領選挙やUber Eatsといった、今まさに話題となっている我々にも馴染みやすいトピックを切り口に、経済について明快な説明がありました。講演会の後半では、イタリアの「アート的心」をテーマに、「辛いことはあるけれども常にドキドキワクワクして生きることが自分のためであり、社会のためである。カンターレ、モンロー、アモーレ（歌って、食べて、恋をしよう）とい



森永氏ご講演の様子

う精神が大事。」と、明るい気持ちを持って人生に臨む大切さについてのお話がありました。

受講した教職員からは、「ワクワクして日々過ごすよう心掛けようと思いました。」「真面目に仕事に取り組む中でも、常に、『アート』な感情を忘れずにいたいと思います。」といった感想がありました。

産業医講演会開催

令和2年11月18日（水）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、「職場におけるメンタルヘルス対策とは？ -メンタル不調を防ぐ、気付く、サポートする-」をテーマとした産業医講演会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出席者約100名の人数制限を設けました。また、講演会実施後には学内イントラネット「BANANA」において、本講演会の動画が配信されました。

講演会では、本学の産業医である衛生学講座の鈴木孝太教授から、前半はメンタル不調の予防法やメンタル不調により休職していた復職者のフォローアップの流れのポイントについて、後半は行動経済学における様々なバイアスを手掛かりに、行動経済学的アプローチで復職支援を行うことについての説明がありました。



鈴木教授ご講演の様子

研修会後のアンケートでは、「毎年一回は開催して欲しい。」「来年もお願いしたい。」との意見が出ていることから、今後も、この産業医講演会を引き続き開催し、教職員のメンタルヘルスの理解へ繋げていく予定です。

管理職SD講演会開催

令和2年12月11日（金）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、株式会社アントレプレナーセンター代表取締役社長の福島正伸氏を講師にお迎えし、管理職を対象としたSD講演会が新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した上で開催され、教職員106名が出席しました。【写真】

講演会では、福島氏が「どのように仕事をする自分が幸せか。」という問いについて考え抜き、いかにして今の自身の仕事をするに至ったのかを学生時代からの数々の経験談を踏まえ、お話し頂きました。また、本講演会のテーマである「人を育てる。」に関して、思い通りに人を操る「管理型マネジメント」ではなく、尊敬・共感・信頼を軸とした「メンタリングマネジメント」を用いて「自立型人材（どんな環境でも前向きに物事に取り組むことができる人材）」を育成する重要性についての説明がありま



した。

講演会後のアンケートでは、「自らの仕事に対する姿勢や考え方を見つめ直し、後輩育成のために意識して努力していきたいと思いました。」「人材育成に当たって、自分自身の仕事に対する姿勢や気持ちの持ち方を変えていこうと思いました。」などの感想がありました。

ハラスメント防止講演会開催

令和2年12月16日（水）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、ハラスメント研修を専門としているダイヤモンド・コンサルティングオフィス合同会社代表の倉本祐子氏を講師としてお迎えし、「パワハラと部下指導の線引きは、どこなのか？～正しく知って、確かな言動～」をテーマとした、ハラスメント防止講演会が新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した上で開催され、教職員73名が出席しました。【写真】

講演会では、部下指導の際のハラスメントと正当な指導の違い・判断基準や、ハラスメントが起こる背景、ハラスメントが引き起こす影響について等、事例を用いながら説明があり、令和2年6月に施行されたパワハラ防止法の理解を深めました。



研修会後のアンケートでは、「具体的な事例等を交え、ハラスメントの考え方を理解することができた。」「自分自身がハラスメントを行わないための意識付けとなった。」などの感想がありました。

令和3年度学年暦のご紹介

令和3年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月2日	入学式
4月5日・6日 4月5日	新入生ガイダンス 5・6学年次前学期授業開始
4月7日・8日 4月8日 4月9日 〃	1学年次新入生研修 2・3学年次学生定期健康診断 1学年次前学期授業開始 1・4学年次学生定期健康診断
4月12日 5月7日 〃	2～4学年次前学期授業開始 5・6学年次総合試験A 5・6学年次学生定期健康診断
5月10日 5月17日～5月21日	解剖慰霊祭 1学年次早期体験実習1a (シミュレーション実習)
5月31日～6月4日	1学年次早期体験実習1b (看護体験実習)
7月7日～7月9日 7月12日～7月16日 7月17日 〃	4学年次定期試験 4学年次地域医療早期体験実習 5学年次Post-CC OSCE体験 6学年次Post-CC OSCE
7月19日～7月21日 7月19日～7月26日 7月19日～8月18日 7月19日～8月22日 7月19日～8月29日 7月26日～7月30日 〃	3学年次定期試験 2学年次定期試験 4学年次夏季休業 5学年次夏季休業 6学年次夏季休業 1学年次定期試験 2学年次外来案内実習
8月2日～8月29日 8月19日・20日 8月30日 9月6日～9月10日	1～3学年次夏季休業 4学年次共用試験CBT 1～3学年次後学期授業開始 1学年次早期体験実習1c (臨床科見学実習)
9月6日～9月17日 9月11日 〃	3学年次地域包括ケア実習 3学年次アーリーエクスポージャー 4学年次共用試験OSCE
10月4日 10月9日 10月11日 10月13日 10月13日・14日 10月21日	4学年次後学期授業開始 4学年次白衣式 6学年次後学期授業開始 5学年次後学期授業開始 5・6学年次総合試験B 1～3学年次防災訓練
10月30日・31日	医大祭
12月13日～12月17日 12月20日～12月24日 12月20日～1月3日 12月23日・24日 12月23日～1月9日 12月27日～1月3日 12月27日～1月9日 1月11日～1月14日 1月19日～1月26日 1月22日 1月31日～2月4日 〃	2学年次定期試験 1学年次定期試験 6学年次冬季休業 3学年次定期試験 2学年次冬季休業 1学年次冬季休業 3～5学年次冬季休業 2学年次定期試験 2学年次チーム医療実習 4・5学年次総合試験C 1学年次定期試験 2学年次地域社会医学実習
2月14日～3月31日 2月15日～3月31日	1・2学年次春季休業 3学年次春季休業
3月5日	卒業証書・学位記授与式
3月21日～3月31日 3月23日～3月31日	5学年次春季休業 4学年次春季休業

看 護 学 部	
4月2日	入学式
4月5日～4月8日 4月5日 4月6日	新入生ガイダンス・新入生研修 2・4学年次前学期授業開始 3学年次前学期授業開始
4月8日 4月9日 〃	2・3学年次学生定期健康診断 1・4学年次学生定期健康診断 1学年次前学期授業開始
5月7日	4学年次定期試験
6月12日 6月21日～6月25日 6月28日～6月30日	2学年次キャンドルセレモニー 2学年次定期試験 3学年次定期試験
7月30日～9月13日	3学年次夏季休業
8月2日～8月6日 8月2日～9月12日 8月2日～9月13日 8月10日～9月13日	1学年次定期試験 4学年次夏季休業 2学年次夏季休業 1学年次夏季休業
9月13日 9月14日	4学年次後学期授業開始 1～3学年次後学期授業開始
10月21日	1・2学年次総合防災訓練
10月30日・31日	医大祭
12月20日～1月3日 12月23日～1月3日	1～3学年次冬季休業 4学年次冬季休業
1月4日～1月21日 1月24日～1月27日 1月24日～3月31日	2学年次定期試験 1学年次定期試験 2学年次春季休業
1月31日～3月31日 2月2日～2月4日 2月7日～3月31日	1学年次春季休業 3学年次定期試験 3学年次春季休業
3月5日	卒業証書・学位記授与式

令和3年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●学校推薦型選抜

<公募制>

- ①試験日 令和2年11月28日(土)
- ②志願者数 106名
- ③受験者数 105名
- ④合格者発表 令和2年12月10日(木)
- ⑤合格者数 20名

●国際バカロレア選抜

- ①試験日 令和2年11月28日(土)
- ②志願者数 3名
- ③受験者数 3名
- ④合格者発表 令和2年12月10日(木)
- ⑤合格者数 2名

●一般選抜

<第1次試験>

- ①試験日 令和3年1月19日(火)
- ②志願者数 2,244名
- ③受験者数 2,179名
- ④第2次試験受験資格者発表
令和3年1月25日(月)

⑤第2次試験受験資格者数

445名

<第2次試験>

- ①試験日 令和3年1月28日(木)・29日(金)
- ②合格者発表 令和3年2月4日(木)

●大学入学共通テスト利用選抜

<前期>

<第1次試験>

- ①試験日 令和3年1月16日(土)・17日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和3年2月10日(水)

<第2次試験>

- ①試験日 令和3年2月16日(火)
- ②合格者発表 令和3年2月22日(月)

<後期>

<第1次試験>

- ①試験日 令和3年1月16日(土)・17日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和3年3月1日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 令和3年3月5日(金)
- ②合格者発表 令和3年3月11日(木)

●学校推薦型選抜<愛知県地域特別枠A方式>

- ①試験日 令和2年11月28日(土)
- ②志願者数 25名
- ③受験者数 25名
- ④合格者発表 令和2年12月10日(木)
- ⑤合格者数 5名

●大学入学共通テスト利用選抜<愛知県地域特別枠B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 令和3年1月16日(土)・17日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和3年3月1日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 令和3年3月5日(金)
- ②合格者発表 令和3年3月11日(木)

《看護学部》

●学校推薦型選抜

<指定校制>

- ①試験日 令和2年11月14日(土)
- ②志願者数 17名
- ③受験者数 17名
- ④合格者発表 令和2年11月25日(水)
- ⑤合格者数 17名

<公募制>

- ①試験日 令和2年11月14日(土)
- ②志願者数 45名
- ③受験者数 45名
- ④合格者発表 令和2年11月25日(水)
- ⑤合格者数 15名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 令和2年11月14日(土)
- ②志願者数 1名
- ③受験者数 1名
- ④合格者発表 令和2年11月25日(水)
- ⑤合格者数 0名

●一般選抜

- ①試験日 令和3年1月24日(日)
- ②志願者数 522名
- ③受験者数 516名
- ④合格者発表 令和3年2月3日(水)

●大学入学共通テスト利用選抜(A方式・B方式)

- ①試験日 令和3年1月16日(土)・17日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:令和3年2月17日(水)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系, 臨床医学系各専攻合わせて21名
- 2 出願期間
令和2年12月1日(火)から
令和2年12月15日(火)まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は, 学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 令和3年2月5日(金)
②試験項目及び時間

時間	試験項目
10:00 { 12:00	外国語(英語)[辞書使用可, 電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は, 英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13:00 {	面接試問(志望する専攻分野に関連する専門試験を含む)

- 4 合格者発表
令和3年2月24日(水)
- 5 入学手続期間
令和3年2月25日(木)から
令和3年3月4日(木)まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部教務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
看護管理学, 慢性看護学, 精神看護学, 在宅看護学及び地域看護学の各領域合わせて若干名
- 2 出願期間
令和3年1月5日(火)から
令和3年1月18日(月)まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は, 学力試験, 小論文, 面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 令和3年2月4日(木)
②試験科目及び時間等

時間	試験科目等
9:00~10:30	小論文
10:45~12:15	専門科目(※)
13:15~	面接

- ※専門科目の出題について
・修士論文コース: 志願する専攻領域
- 4 合格者発表
令和3年2月10日(水)正午ごろ
 - 5 入学手続期間
令和3年2月12日(金)から
令和3年2月17日(水)まで
 - 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係

愛知医科大学医学部公開授業 ～学生に学ぶ救急蘇生法～開催

長久手市に設置される4大学（本学，愛知県立大学，愛知県立芸術大学，愛知淑徳大学）において「長久手市大学連携推進ビジョン4U」を策定し，連携事業を実施しています。その事業の一つとして，令和2年11月25日（水）に「愛知医科大学医学部公開授業～学生に学ぶ救急蘇生法～」が開催されました。

この公開授業は，「えっ！？ペットボトルで心肺蘇生練習？」と題し，ビデオ会議システム「Zoom」によるオンライン講座として行われ，本学医学部学生が指導役となり，連携する他大学の学生や大学連

携事業の関係者に初歩的な救急蘇生法を指導しました。

今年はコロナ禍の中での開催となったため，オンラインでの説明に学生達も苦戦を強いられました。が，心肺蘇生法の指導では，音楽を使って胸骨圧迫のペースを説明したり，ペットボトルを使って体感してもらったりと，色々な工夫がなされ，受講者からも「分かりやすかった。」と好評を頂きました。

今後も様々な取り組みが予定されていますので，地域における本学学生の活躍にご期待ください。

令和2年度医学部第2回FD開催

今年度は，新型コロナウイルス感染症の影響もあり，授業形態の変更を余儀なくされました。昨年7月には，「遠隔講義の現状と今後に向けて」をテーマに医学部第1回FD（ファカルティディベロップメント）が開催され，今回は，講義形態の変更に伴う評価方法に焦点を当て，令和2年10月22日（木）に「遠隔授業における評価方法の経験とノウハウ」と題した第2回FDがWeb開催されました。

第1回同様，前学期に科目を担当した解剖学講座の内藤宗和教授，衛生学講座の鈴木孝太教授，放射線医学講座の鈴木耕次郎教授から，それぞれの評価方法の経験を共有しました。本年度の前半は，定期試験を大学で実施することができず，Webにて評価せざるを得なかった科目が幾つかありました。自宅から試験を受験するという事は，教科書・資料などを閲覧することが可能となり，正当な評価ができないのではないかという懸念がありました。そのような状況で，問題数や試験時間を適切に設定することによって，例え教科書などを閲覧できる環境でも，ある程度適切に評価が可能であったということが鈴木(耕)教授から報告されました。また，eラーニングシステム（AIDLE-K）を用いて，形成的評価

をしっかりと行った事例が内藤教授から報告されました。

FDを主催した医学教育センターの早稲田勝久センター長から，「教育における『評価』の役割は，『Assessment drives learning.（評価が学修を形成し，また促進する。）』と言われるように，非常に重要です。なぜなら，『評価（＝試験）』は，学習者の行動や教育内容に影響するからです。分かり易く言い換えると，試験が難しい科目では，学生はそれ相応に勉強をしますが，試験が簡単な科目では最低限しか勉強しません。試験の難易度や評価される内容によって，学生の勉強の仕方は変わるため，評価を適切に行うことが大切と言われる所以です。アウトカム基盤型教育では，学修成果として必要な能力の修得を評価することが，教育者の重要な業務であり，個々の学生（医療者）の質保証の一つとなります。」とのコメントがありました。

今年度の新型コロナウイルス感染症の拡大は，各科目で学修目標を基に評価を見直す契機となったのではないかと思います。各科目で評価方法を再検討し，この困難を乗り越えていくことが期待されます。

医学教育者のためのワークショップ 「ICTを活用した新たな教育を目指して」開催

今年度の医学教育者のためのワークショップ（学内ワークショップ）が、令和2年12月25日（金）及び26日（土）に開催されました。今回はCOVID-19影響下のためZoomを使用したオンラインでの研修会となり、①オンライン会議システム（Zoom）、②オンライン上ホワイトボード（Google Jamboard）、③教育授業支援システム（AIDLE-K）のICTツールをフル活用して行われました。

研修会は、祖父江元 学長、若槻明彦医学部長、早稲田勝久医学教育センター長からのあいさつに始まり、本学の医学教育の目標を再認識し、建学の精神に基づき、どのような医学教育がこのコロナ禍に必要とされているのかについて、様々な講座の教員によって活発な意見が交わされました。

初日は、教育の難しさ、学生に求める年次経過の達成目標を各教員が理解することの難しさ、大学全体が同じ方向を向き、教育をすることの重要性と大切さについて議論が行われました。二日目は、Professionalismという概念や考え方を中心にディスカッションや情報共有を行い、更に、COVID-19影響下から見てきた現在の本学医学部学生の現状と問題点を共有し、今後の教育にどのように対応していくのかについて検討する研修となりました。

このワークショップを担当した医学教育センターの青木瑠里講師から、「『最近の若者は…。』という言葉は、どの時代にもありますが、否定ばかりでは



集合写真



Zoomによるオンライン画面

なく、許容し柔軟に対応できる教員になっていきたいという検討が印象的でした。参加者の皆さまのご協力もあり、オンライン上での様々なツール使用に問題なく、滞りなくワークショップを終了することができました。ご協力頂きました皆さまに深く感謝申し上げます。」とのコメントがありました。

看護学部進路懇談会実施

令和2年12月22日（火）午後1時から、看護学部3学年次生を対象に、「看護学部進路懇談会」が実施されました。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、看護師、保健師、助産師として活躍する卒業生5名にご協力頂き、Zoomを利用した実施となりました。

進路懇談会では、佐々木裕子学生委員会委員長から趣旨等が述べられ、次いで卒業生から、就職・進学先を決定した動機やエピソード、現在の看護実践の状況、仕事を含めた生活等について、リレー方式で一人当たり10分程度お話し頂きました。また、就職関連の情報提供について、株式会社マイナビから、「やっておくべき大切なポイント」として、自己分析、情報収集、病院比較、選考対策について紹介がありました。

続いてZoomブレイクアウトセッション機能を使用し、3学年次生の参加者が自由にブレイクアウトルームを移動し、希望する職種の卒業生との懇談を行い、アドバイスを受けました。

進路懇談会後の学生アンケートでは、「進路決定について参考になったか。」の設問に対し、全員から「参考になった。」との回答が得られ、「就活を考える良いきっかけになった。」「卒業生の進路選択の体験談を聞いてイメージが持てた。もっと幅広く調べて自分に合うところを見つけていきたい。」「実際にご活躍されている先輩に相談することで悩んでいた部分を解決することができてスッキリした。」等の感想が多く寄せられ、看護専門職の各分野で活躍している本学部卒業生の体験を聴くことで、今後の進路決定の手がかりを得る貴重な機会となりました。

令和元年度看護学部・看護学研究科 ベストティーチャー賞表彰

看護学部及び看護学研究科では、例年、ベストティーチャー賞を授与しています。同賞は、平成29年度から導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャーを受賞した教員は、次のとおりです。

看護学部

- ・高橋 佳子 教授（成人看護学領域）
- ・山幡 朗子 准教授（基礎看護学領域）

看護学研究科

- ・山中 真 准教授（看護管理学領域）
- ・黒澤 昌洋 講師（臨床実践看護学領域）

※ 令和元年度の表彰式は、新型コロナウイルス感染症の影響から、実施しませんでした。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 第10回ながくて子育てフェスタ開催

令和2年10月25日（日）に、第10回ながくて子育てフェスタが開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、これまで開催された子育てフェスタのような対面での講演会や、グループワークなどの実施を断念し、子育て支援ネットながくてに参加している本学看護実践研究センター地域連携・支援部門が共催となり、本学のICTを活用しオンラインでの開催となりました。【写真】

今回の子育てフェスタは、長久手市が市民の新たなつながりの場として計画している「リリモテラス公益施設（仮称）」で行われる活動に向けて、子育てに関わる複数の団体の方々にご参加頂き、各団体がどのような活動を提供できそうか等、自由に意見交換が行われる場となりました。

また、子育て支援ネットながくては、子育てフェスタで「リリモテラス公益施設（仮称）」の運営協



議会と子育てに関わる市民団体が連携するためのファシリテートとしての役割を担うとともに、子育てフェスタで出された意見の集約を行いました。

今後も、看護実践研究センターでは、長久手市で必要とされている子育て支援の在り方について模索することに努めていきます。

ナーシングフェスタ2020開催

令和2年12月19日（土）に「看護をみつめ、分かちあおう」をテーマとして、ナーシングフェスタ2020が開催されました。【写真】

これまで看護部では、看護専門職としての能力開発及び看護ケアの質向上を目指し、毎年看護研究発表会を開催していましたが、昨年度から、看護の楽しさ・やりがいを分かちあうお祭りの「ナーシングフェスタ」に改名し、今年度の開催で2回目を迎えることとなりました。

今年度のフェスタは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い集合型での開催が困難となり、「自部署の看護自慢」の録画をWebで視聴する企画に変更し、各部署の工夫を凝らした看護自慢映像が提出されました。

また、フェスタのもう一つの企画である、第43回看護研究発表会は動画によるライブ配信としました。28演題の発表により、4時間という長時間に亘る配信となりましたが、常時150名以上の参加があ



り盛況のうちに終了しました。

看護研究発表会をフェスタへ移行し主催している井上里恵看護部長から、「研究発表を毎年行うことで研究内容が充実・洗練され、研究が実践に繋がっていると感じました。ナーシングフェスタを終え、改めて本院での看護の素晴らしさを実感することができました。ナーシングフェスタの開催に当たり、ご協力頂きました皆さまに感謝致します。」とのコメントがありました。

令和2年度医療安全推進週間イベント ～患者・家族の医療参加～

令和2年11月24日（火）～27日（金）中央棟2階の共有待合スペースにおいて、「患者・市民の医療参加」をテーマとした、令和2年度医療安全推進週間イベントの特設ブースが設けられ、ご来院の方に医療安全に関するリーフレットの配布や安全グッズ等を紹介する冊子が展示されました。



患者さんへのリーフレット配布と医療参加について呼びかけを実施

医療安全の実現には、患者さん・ご家族の協力が必要であることから、10項目をまとめたリーフレット「安全な医療を受けていただくためにご協力いただきたいこと」を配布して、安全な医療のために患者さん・ご家族の医療参加を呼び掛けました。また、患者さん同士のソーシャルディスタンスを保って頂くために、外来フロアの待合イスの座面に「ソーシャルディスタンス+医療安全標語」を一緒にしたポスターを貼付し、待ち時間にご覧頂くことで、患者さん自身のことや今できることについて考えて頂くような取り組みを実施致しました。



リーフレット

令和2年度第1回保険診療に関する講習会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されていることが必須とされており、令和2年度第1回保険診療に関する講習会が、令和2年12月1日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて開催されました。今回の講習会はZoomを利用しライブ映像を配信する形式となり、医師、看護師、メディカルスタッフ及び事務職員など幅広い職種から127名の参加がありました。

講習会のテーマは、「診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性～コロナ渦を乗り越えて未来へ向

かうために愛知医科大学病院はいかに対応するか～」と題し、一般社団法人日本血液製剤機構の谷澤正明氏から解説をして頂きました。令和2年度診療報酬改定の概要や、DPCデータから見た本院の効率性係数、複雑性係数及び疾患別の患者比率を愛知県内の急性期病院、全国の大学病院と比較し、本院の特性、立ち位置、今後の方向性について説明があり、自院における今後の病院機能の充実・課題等を明確にしていくことが重要であると再認識した講習会でした。

愛知医大サービス株式会社 新店舗紹介

愛知医大サービス株式会社では、本学・病院内にて店舗等のサービス施設を運営しています。この度、令和2年12月1日（火）にアメニティ棟（立石プラザ）2階フードコートにおいて新店舗「PIZZA AQUA」がオープンしました。

店名の「AQUA」は、ラテン語・イタリア語で「水」を意味します。アメニティ棟（立石プラザ）から立石池を眺望できるため、「ナポリの水辺の屋台へようこそ」というコンセプトでお客様に親しみを持って頂けるようにと願いを込めて命名しました。

「PIZZA AQUA」はピザ専門店です。ペレットという木のおが粉を高圧縮したバイオマスエネルギーを燃料とした窯を使用しており、焼きたてアツアツのピザをメインとして、フライドポテトやパニーニ（ホットサンド）と様々なメニューをご用意しました。

ホームページ (<https://pizza-aqua.com>) にてラインナップ予定メニュー等をご確認頂くことも可能です。是非一度、ナポリの香りと味をお楽しみください。



PIZZA AQUA



環境にやさしい木質ペレット燃料



献血ご協力ありがとうございました

令和2年11月17日（火）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施されました。本学では、夏と冬に団体献血に協力しており、今回は新型コロナウイルス感染症の影響から献血会場の設置機会が減少したため、血液が不足していることによる臨時実施となりましたが、職員及び学生の多くの方にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血

の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

次回は令和3年2月25日（木）に実施しますので、ご協力よろしく申し上げます。

臨時団体献血（結果）

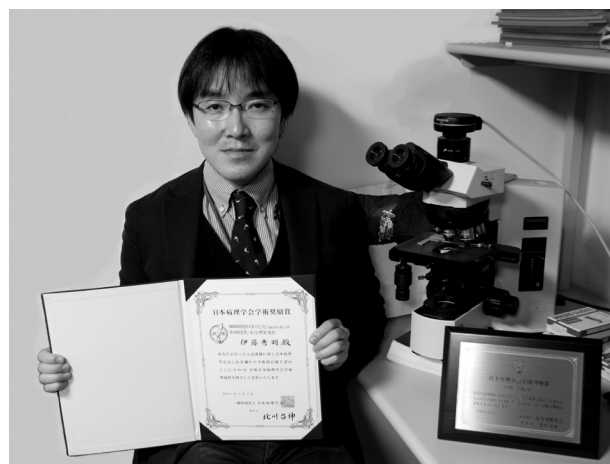
・ 献血受付数	・ 35名
・ 献血できた方	・ 26名 (400ml・26名)
・ 献血できなかった方	・ 9名

病理学講座 伊藤 秀明講師 日本病理学会令和元年度学術奨励賞受賞

病理学講座の伊藤秀明講師【写真】が、令和2年11月12日（木）、13日（金）の2日間にわたりアクトシティ浜松で開催された第66回日本病理学会秋期特別総会において、令和元年度学術奨励賞を受賞しました。

これは、昨年度末において継続して5年以上の会員歴を持つ40歳以下の会員、または、学位取得後10年以内の会員として、論文「細胞分裂関連因子STILの癌細胞遊走における機能解析」が高く評価されたものです。

受賞された伊藤講師からは、「今回、名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。病理学講座の笠井謙次教授及びスタッフの皆さまを始め、ともに研究く

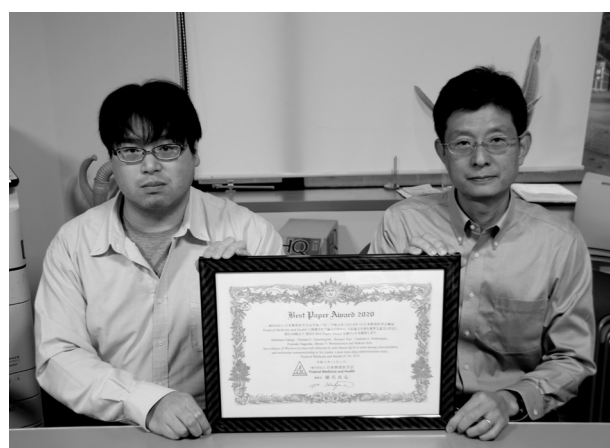


ださった方々のご指導・ご支援の賜物と深く感謝しております。今後も愚直に病理学研究・診断・教育に取り組み、精進していく所存でございます。」との感想がありました。

感染・免疫学講座 高木 秀和准教授（特任）、長岡 史晃助手 日本熱帯医学会雑誌Tropical Medicine and Health 2020年度Best Paper Award受賞

感染・免疫学講座の高木秀和准教授（特任）及び長岡史晃助手が、令和2年11月1日（日）から3日（火）までの3日間にオンラインにて開催された「グローバルヘルス合同大会2020大阪」での第61回日本熱帯医学会大会（その他、第35回日本国際保健医療学会学術大会、第24回日本渡航医学会学術集会、第5回国際臨床医学会学術集会との合同開催）において、日本熱帯医学会雑誌Tropical Medicine and Health 2020年度Best Paper Awardを受賞しました。

これは、2019年にTropical Medicine and Health誌に掲載された論文「Surveillance of Wuchereria bancrofti infection by anti-filarial IgG4 in urine among schoolchildren and molecular xenomonitoring in Sri Lanka: a post mass drug administration study.」が本誌編集主幹の投票によっ



右から、高木准教授（特任）、長岡助手

て最も優秀な論文として評価されたものです。

受賞された高木准教授（特任）からは、「皆さまのおかげで、この度このような賞を受賞することができました。今後もなお一層精進していく所存でございます。」との感想がありました。

中央放射線部 大澤 充晴診療放射線技師 日本心血管インターベンション治療学会第43回東海北陸地方会 最優秀演題賞受賞

中央放射線部の大澤充晴診療放射線技師【写真】が、令和2年10月9日（金）から11月9日（月）にわたりWebにて開催された日本心血管インターベンション治療学会第43回東海北陸地方会において、最優秀演題賞を受賞しました。

これは、同会における一般演題での発表「各社の最新血管撮影装置におけるステント強調モードの被ばく線量と画質の検討」が高く評価され、最優秀演題として選定されたものです。

受賞された大澤技師からは、「この度は、栄えある最優秀演題賞を頂き、とても榮譽のあることと感動しております。これも一重に多くの皆さまに支え

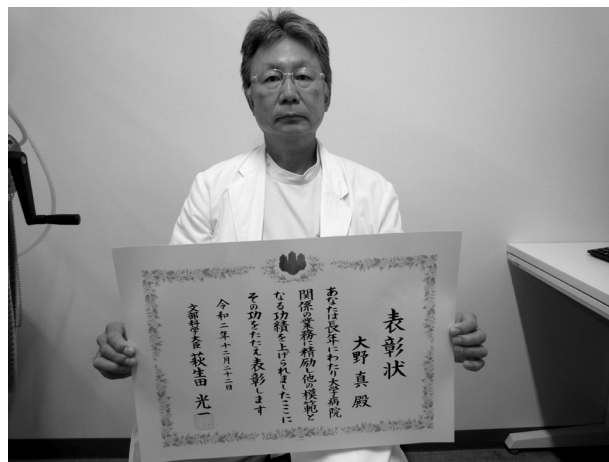
て頂き、ご指導頂いたおかげです。本当に心から感謝申し上げます。今後もより一層、臨床に有用な技術の研究を積み重ねて参ります。この度は誠にありがとうございました。」との感想がありました。



臨床工学部 大野 眞主任 医学教育等関係業務功労者表彰受賞

臨床工学部の大野眞主任【写真】が、令和2年12月22日付で文部科学大臣から、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々に授与される、医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

表彰を受けた大野主任からは、「この度、このような榮譽ある賞を頂き、大変光栄なことと存じます。これも臨床工学部を始め、多くの方々のご指導、ご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げます。今後なお一層精進していく所存でございます。」と受賞の喜びと感謝の言葉がありました。



教育・研究・診療の基盤整備事業募金寄付者ご芳名（敬称略）

教育・研究・診療の基盤整備事業募金にご協力頂き、心より御礼申し上げます。

ご寄付を頂いた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

（平成30年4月1日～令和2年12月31日現在）

募金総額 317,358,930円 募金者数：個人 162件 法人・団体 25件

<個人>

浅井 和子	足立 義一	石島 正嗣	井田 雅章	市川 嘉一	今井 紀子	岩田 裕次
上野 隆彦	宇佐美覚了	宇佐美公子	内田 稔也	内海 眞	戎井 浩二	大須賀友晃
大野 則和	岡田 太郎	勝野 正英	加藤 純子	加藤 豊文	加藤 正治	加藤 庸子
金桶 陽	川合 尚	川崎 恭典	神戸 康秀	岸本 知樹	金 節子	木村 光利
久野 健一	久野 里佳	黒木 玲子	小杉 将仙	後藤 雄州	後藤八千代	小林 良太
佐井 紹徳	齋藤 照男	才村 弘也	坂本真理子	佐々木拓次	佐藤千代香	柴野 英典
柴山 始久	嶋吉 敏文	清水 宗久	清水口彩加	鈴木 泰子	祖父江 元	高田 勝
高田麻哉子	高橋 孝子	竹田 幸祐	田中 一字	田中 信彦	田中 元也	田邊 和彦
番井 利恵	塚本 芳春	都築 史恵	土居 聡	堂森 丈正	遠山美智子	富田 幸嗣
富田 裕一	中島 鉄夫	仲谷 宗裕	中野 久美	中村 悟己	中山 貴子	西山 耕
林 和子	林 博子	肥後 夏月	樋上 泰成	平野 達也	深井 健一	福智 寿彦
藤林 孝義	藤原 祥裕	二村 眞秀	古岡 邦人	増岡 尚子	松平 仁	三浦久美子
村上 恒久	村松 忠	森川 晋吾	森田 絵万	柳原 崇	矢野浩一郎	山本 千廣
若槻 明彦	渡邊 慎					

匿名 57件（五十音順）

<法人・団体>

一般財団法人愛知医科大学愛恵会	愛知医科大学医学部父兄後援会
愛知医科大学看護学部父母会	一般社団法人愛知医科大学同窓会
愛知医大サービス株式会社	医療法人社団京愛会
医療法人幸会	医療法人如水会 鈴鹿腎クリニック
中尾産業株式会社	医療法人福智会
医療法人美衣会 衣ヶ原病院	株式会社山下設計
医療法人る・ぷてい・らぱん	

匿名 4件（五十音順）



山下設計贈呈の様様

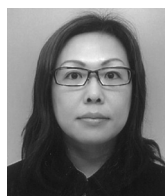
※寄付申込みに当たりご芳名の掲載を許諾頂いた方のみ掲載しています。

教育・研究・診療の基盤整備事業募金寄付者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（教育・研究・診療の基盤整備事業募金）においても掲載しています。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



村上 五月

学位授与番号 甲第576号

学位授与年月日 令和2年11月19日

論文題目：「Combining T-cell-based immunotherapy with venetoclax elicits synergistic cytotoxicity to B-cell lines in vitro (T細胞性免疫療法とvenetoclax併用療法はB細胞悪性腫瘍に対して相乗的に細胞毒性を誘発する：in vitro研究)」

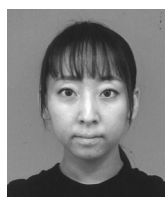


倉橋 真太郎

学位授与番号 乙第406号

学位授与年月日 令和2年11月19日

論文題目：「A novel classification of aberrant right hepatic ducts ensures a critical view of safety in laparoscopic cholecystectomy (腹腔鏡下胆嚢摘出術の安全性のための副右肝管走行の新たな分類)」



小西 梨乃

学位授与番号 甲第577号

学位授与年月日 令和2年11月19日

論文題目：「Psychosis rarely occurs in patients with late-onset focal epilepsy (高齢発症焦点性てんかんにおける精神症状の発現の希少性)」

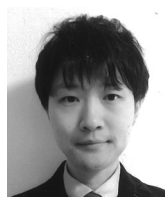


松村 卓樹

学位授与番号 乙第407号

学位授与年月日 令和2年11月19日

論文題目：「Dual common bile duct examination with transcystic choledochoscopy and cholangiography in laparoscopic cholecystectomy for suspected choledocholithiasis: a prospective study (総胆管結石疑診症例の腹腔鏡下胆嚢摘出術における術中胆道造影+経胆嚢管的胆道鏡(Dual common bile duct examination)の有用性と安全性について-前向き臨床試験-)」

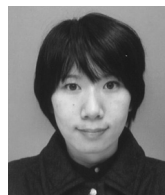


高 四強

学位授与番号 甲第578号

学位授与年月日 令和3年1月14日

論文題目：「Practical and safe method of long-term cryopreservation for clinical application of human adipose-derived mesenchymal stem cells without a programmable freezer or serum (臨床応用を目的とした、ヒト脂肪由来間葉系幹細胞における長期凍結保存条件の基礎的検討)」



山路 真也子

学位授与番号 乙第408号

学位授与年月日 令和3年1月14日

論文題目：「Distribution of scatter radiation by C-arm cone-beam computed tomography in angiographic suite: measurement of doses and effectiveness of protection devices (血管撮影装置によるコーンビームCT撮影時の室内散乱線分布と被曝防護法の検討)」

令和3年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型)	3	9,500
基盤研究 (B) (一般)	14	102,602
基盤研究 (C) (一般)	129	220,716
挑戦的研究 (開拓)	1	7,000
挑戦的研究 (萌芽)	5	14,015
若手研究	48	76,957
合 計	200	430,790

※令和3年度分の申請金額 (令和2年11月5日(申請締切日)時点)

研究助成等採択者

◇公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団

調査研究助成

・氏 名 三嶋廣繁 (感染症科・教授)
 研究題目 女性生殖器感染症に対する新規予
 防戦略の構築
 助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人上原記念生命科学財団

研究奨励金 (新領域4.0)

・氏 名 福重香 (解剖学講座・助教)
 研究題目 肺胞を標的とした核酸吸入剤の開
 発 - COPD治療に向けて -
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人内視鏡医学研究振興財団 研究助成

・氏 名 井上匡央 (肝胆膵内科・助教)
 研究題目 胆管金属ステント内腫瘍増殖に対
 するバルーンアブレーション療法
 の開発
 助成金額 500,000円

令和2年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和2年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位:千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
研究活動スタート支援 (基金)	呉 ユー 秋 医学部 薬理学講座, 助教	1,100	330	ストレスによる交感神経系活性化に関与する脳内メディエーターの遺伝子産物の解析
〃	前 仲 亮 宏 薬 剤 部 薬 剤 師	1,100	330	難治性拒絶反応克服のための抗原制御の試みと誘導性HLAに対する免疫応答の解明
〃	原 尚 子 客 員 研 究 員	1,100	330	リンパ浮腫におけるリンパ管, 周辺組織の病理学的解析と病態解明, 治療法開発
〃	若 山 怜 医学部 衛生学講座, 助教	900	270	行動変容ステージが生活習慣と生活習慣病予防に及ぼす影響の縦断的検討
〃	名仁澤 英里 医学部 解剖学講座, 助教	1,100	330	短期高脂肪食モデルによる非アルコール性脂肪肝炎の超早期病態の解明
〃	大 塚 俊 医学部 解剖学講座, 助教	1,100	330	身体能力に基づく深筋膜の可塑性の解明: 新たなコンディショニング法の開発に向けて

- ・ 令和3年1月1日時点の情報を掲載
- ・ 課題番号順にて記載
- ・ 氏名は, e-Rad (府省共通研究開発管理システム) 研究者登録名にて記載
- ・ 「交付決定通知」を基に作成
- ・ 令和3年1月までの転入転出を含む
- ・ 今年度請求額を記載

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

救急診療部

愛知医科大学病院救急診療部は、救命救急科とも連携しながら、本院で年間約7,000件受け入れている救急車搬送の初療を初期研修医、看護師、院内救命士、放射線技師、検査技師とともに担当しています。

昨今では、独居の高齢者や老老介護の患者が増え、方針決定に際し、疾患だけでなく患者の社会的背景も踏まえると帰宅が困難な場合も多く、医療福祉相談室を通して他の医療機関とも連携しています。

救急診療部が力を入れていることの一つに教育があります。ベッドサイドでの医学生、卒後臨床研修医の教育はもちろんのこと、救急救命士や看護師の病院実習も積極的に行っています。

コロナ禍でも致命的な救急疾患を見逃さずに、いち早く最善の根本治療へ繋ぐことをモットーとして診療に当たっています。救急診療部の診療は、様々な方の協力なしでは成立しません。より良い医療が提供できるよう地域のために頑張っていますので、今後ご協力の程よろしくお願い致します。



スタッフの集合写真



救急搬送時訓練の様子

中央材料部

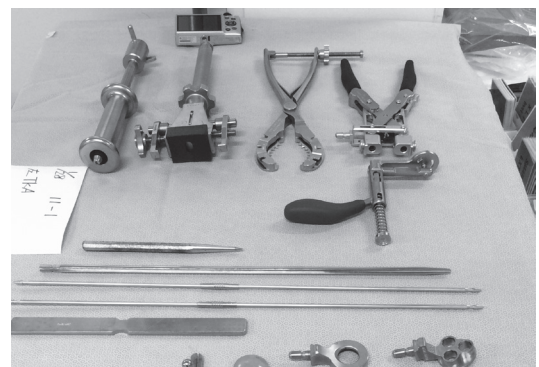
愛知医科大学病院中央材料部の主な業務は、外来、病棟、中央診療部門において使用する機（器）材、器械の洗浄、消毒、パッキング、滅菌を行い各部署へ供給しています。

年々、高度かつ複雑となる医療機器、多種多様となる医療材料に対応し、一つひとつ丁寧に業務することを念頭に置いて、医療に使用する物品・機材から院内感染を防止することで患者さんが安心して治療を受けることができるように、また、病院スタッフが良質な医療を提供できるように活動している部署です。

中央材料部がなければ、病院運営ができない程、存在感が大きいにも関わらず、多くの患者さんや病院スタッフは、その場所がどこにあるのかわかりません。逆に、中央材料部のスタッフからも、患者さんや医療スタッフの顔を見たり、声を聴いたりすることはできませんが、病院（社会）を陰で支え続ける人がいることをお互いに心の中で想い合うことで、病院（社会）がスマイルになれるでしょう。



中央材料部の様子



取り扱う機（器）材のごく一部

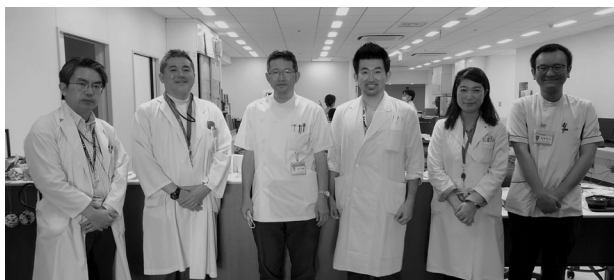
「教育・研究最前線」

単なる知識の丸暗記ではなく、考える能力を身に付けよう

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

我々心臓外科医は、術前検査の際、頭部から体幹、更に末梢血管までを評価するため、CTあるいはMRI、エコー精査、生理学的検査など多岐にわたり、これらの検査結果を総合的に判断し、手術のリスク、術式などを検討する。これほど多くの検査を行う科は心臓外科以外ないのではないかと思われるが、更に周術期は、循環管理はもちろん、脳血管疾患の異常、消化管、腎機能、肝胆道系、末梢血管の異常に加え、内分泌系、特に糖尿病、脂質管理が重要になってくる。このように、心臓外科医は、あらゆる周術期の合併症に対して素早く判断し、対応する能力が必要である。本学学生にとって、現在まで受験時代を含め言われたことさえやっていたら良かったかもしれない。しかし、医師になれば自ら行動し、自ら問題点を解決していかなければならず、そのためには、常日頃、「なぜ」、「どうして」という疑問を抱き、考える能力が大変重要になる。

心臓外科にクリクラをまわる学生においては、疾患ごとの勉強も重要であるが、一人の患者さんを受け持ち、患者さん全体を理解することを重視している。上記の事を踏まえて、毎朝、担当患者のプレゼンテーションをしてもらっている。初めは、まとまりのないプレゼンテーションとなりがちであるが、2週間で徐々に上達するようになる。また、人前でのプレゼンテーション能力や話をまとめて話す能力も同時に身に付くであろう。



医局員集合写真

外科学講座（心臓外科）・教授 松山 克彦

卒後教育において、患者さん全体を理解することは同じであるが、疾患だけでなく、患者背景、その家族とのつながりを深めたコミュニケーション能力を身に付けてもらえるように指導したい。そのためには医師自身が教養を深め、広い視野を持つことも重要である。

【世界に発信する医学研究】

現在の医局講座の体制では基礎研究は難しく、臨床に根ざした研究が中心となる。心臓外科は、めざましい機器の発達と医療の高度化、低侵襲化が進んでいる。低侵襲手術は、時にリスクを上昇させるが、いかに安全に、かつ、どの施設でも行えるスタンダードな低侵襲手術を行うかをテーマにしている。

また、日々の臨床面においては、どんな小さな疑問点、問題点でも探究心を持ち、論文にする習慣が重要で、その積み重ねが大きな成果につながるものと思われる。

【部署からの一言】

心臓外科は、手術時間が長い、緊急が多い、重責であるなどの理由によって志望する学生がほとんどいないということが寂しい限りであるが、最も魅力のある、やりがいのある科であると自負している。

未来の外科発展のため、ガッツのある学生が一人でも現れることを期待している。



カンファレンスの様子

臨床能力の優れた医師を育てる

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

医学教育では卒前・卒後のシームレスな教育体制の構築が求められ、クリクラでは臨床参加型実習が求められている。国試合格後、初期研修医として配属された初日に信頼して任せられる研修医を卒業させることが肝要である。(EPAs: Entrustable Professional Activities, アウトカム基盤型教育)

外科はコア・カリキュラムで挙げられた六つの重要な診療科の一つである。血管外科のクリクラは、外科臨床実習の一環として行われるが、これを踏まえて、血管外科に特化したことを5割、外科として共通なことを5割教えている。具体的には、学生各自が一人の患者さんを受け持ち、毎日一人で訪室し、患者さんと話をし、診察するようにしている。これによって、入院から手術、退院までの一連の経過を学ばせ、症例検討会でプレゼンさせている。血管外科を選択した学生は心臓外科が非履修となっているので、心臓外科と共通プログラムを設け、両診療科の重要な知識をミニ講義(クルズス)で学ぶようにしている。英文解釈能力が付くように、実習初日に血管外科関連の英語論文を渡し、最終日にプレゼンさせている。シミュレーターでの縫合実習を行い、手術では可能な限り皮膚縫合をさせている。

初期研修初日に信頼して任せられる卒業生となるように指導している。

【世界に発信する医学研究】

血管外科医を目指すには、2年の初期研修を行っ



カンファレンスの様子 (COVID-19禍下)

外科学講座(血管外科)・教授 石橋 宏之

た後、3年の後期外科研修を行う。後期研修1年目は、総合的な外科研修として、消化器・心臓・血管・呼吸器・乳腺内分泌・腎移植・小児外科をローテート研修し、2年目から血管外科を固定研修する。血管外科医としては、心臓血管外科専門医・ステントグラフト指導医・学位の三つを取得するように指導している。そして、チャンスがあれば海外留学させている。

現在、6名在籍しているが、4名海外留学の経験があり、広い視野から血管外科学を見ることを指導している。卒前のクリクラから継続するシームレスな教育を行い、臨床能力の優れた血管外科医を育てることを目標としている。研究は臨床研究が中心であり、英語論文は学位論文と症例報告が中心であるが、2年間で7編発表した。増加しており、少ない人数ながら頑張っている。

【部署からの一言】

外科は3Kの代表的診療科と言われ、全国的に入局者が減少傾向です。血管外科手術は、従来の開腹や直視下の手術(オープン手術)からカテーテルによる血管内手術に大きくシフトし、今や8割以上は血管内手術です。短時間になり、体力も必要ありません。手術でないと救えない命があります。

外科手術に興味のある人は、是非、外科医を志し、更に、血管外科の醍醐味に興味のある人は血管外科の門を叩いてください。



豚大動脈縫合セミナー (COVID-19禍前)

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

分院設置準備室設置要綱の制定

学校法人愛知医科大学分院設置準備室設置要綱が制定され、分院の開院に向けた準備を行う分院設置準備室に関し必要な事項が定められました。

施行日は令和3年1月14日

過半数代表者に関する規程の制定等

労働基準法に基づき、労使協定の締結等の相手方となる過半数代表者を選出するため、以下の関連規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年2月1日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学過半数代表者に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学過半数代表者選挙細則

看護休暇に関する規程の一部改正等

関連法令の改正により、看護休暇及び介護休暇を時間単位で取得できるようになったため、以下の関連規則が整備されました。

施行日はいずれも令和3年1月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学看護休暇に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学介護休暇に関する規程

「再任用教職員以外で雇用する場合の分限等について」の一部改正

令和3年4月1日付で「再任用教職員以外で雇用する場合の分限等について」（理事長裁定）の一部が改正され、新たに看護系教職員に関する規定が整備されることになりました。

医学部特任教員選考規程の一部改正

愛知医科大学医学部特任教員選考規程の一部が改正され、特任教員候補者の推薦に係る提出書類等が改められました。

施行日は令和3年1月1日

大学院学則の一部改正

大学院設置基準の改正に伴い、愛知医科大学大学院学則の一部が改正され、学生が入学前に修得した単位及び在学中に他大学院で修得した単位で、本大学院が認めることのできる単位数の上限を改めるとともに、入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮に関する規定が整備されました。

施行日は令和3年4月1日

看護学研究科科目等履修生規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科科目等履修生規程の一部が改正され、科目等履修生として認めることのできる単位数の上限が、大学院設置基準の改正内容に合わせて15単位に改められました。

施行日は令和3年4月1日

研究創出支援センターバイオバンク部門資料管理要領の制定等

学内及び学外の研究における本学研究創出支援センターバイオバンク部門の活用を促進するため、以下の関連規則が整備されました。

施行日はいずれも令和2年12月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学研究創出支援センターバイオバンク部門試料管理要領

- ・愛知医科大学研究創出支援センターバイオバンク部門試料配布要領
- ・研究創出支援センターバイオバンク部門における試料の管理及び配布の費用負担等について（理事長裁定）

【一部改正】

- ・愛知医科大学成果有体物取扱規程

臓器提供委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院臓器提供委員会規程の一部が改正され、委員の選任に関する事項が改められました。

施行日は令和3年1月1日

危害予防規程の一部改正

愛知医科大学病院危害予防規程の一部が改正され、大規模な地震に係る防災及び減災対策の基本方針について、詳細な項目が規定されました。

施行日は令和2年10月20日

診療情報の開示に関する規程の一部改正

関連法令の改正に伴い、愛知医科大学病院診療情報の開示に関する規程の一部が改正され、本人確認等を目的として被保険者等記号・番号等の告知要求を行わないことになりました。

施行日は令和2年10月1日

インフォームド・コンセントの適正な実施に関する規程の一部改正

インフォームド・コンセントの適正な実施に関する規程の一部が改正され、説明者とは別の医師等が説明時に同席できなかった場合の記録方法等が改められました。

施行日は令和3年1月1日